J-CLIL Newsletter vol.01 (2018.6)

J-CLIL Newsletter

本号の内容

| CLIL の楽しみ (I) —— CLIL との出会い—— |
|--|
| シリアの子どもたちの声を聞こう!――公立小学校6年生対象の CLIL 実践――4 坂本ひとみ(東洋学園大学) |
| CLIL による協調学習の実践――「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ――7 山崎勝(埼玉県立和光国際高等学校) |
| 理科 CLIL「食物連鎖—— The Food Chain ——」 |
| 韓国語における CLIL の試み――大学韓国語授業での CLIL 的実践――13 金興重(目白大学大学院生) |
| 童謡・童話から学ぶ自然と韓国語――マザータングプログラム韓国語クラス――17 錢昭熹(目白大学大学院生) |
| J-CLIL 協賛会員 & Website |

CLIL の楽しみ(1) --CLIL との出会い--

笹島 茂(J-CLIL 会長、東洋英和女学院大学)

1. はじめに

まず、このニュースレターの発行に感謝します。 CLIL は徐々に広がっていますが、まとまった実践の共 有の場がまだ少ないのが現状です。ヨーロッパでも同様 の傾向がありますが、研究と実践がうまく機能すること が求められています。CLIL はどちらかと言えば実践が 先で研究が後からついて来ている学習理念です。日本で は、ヨーロッパで広がっている CLIL を知った研究者が 紹介し少しずつ広がりました。その過程で、多くの人が 同じような疑問を持ちました。「CLIL とは何か? CLIL と CBI やバイリンガル教育などとはどう違うのか?」 などです。この答えは明確ではありません。いくつかの 論考にその違いを整理したものがあります。私も同様 のことをしました。現在は、やめています。それよりも 実践することに意義があると考え、教科書を作成した り、研究会を開催したりしました。J-CLIL の発足もそ の道程にあります。2018年4月時点で200人の会員を 要する任意団体となりました。実に嬉しいことです。こ のニュースレターはその成果です。皆さん、CLIL につ いて考えていること、悩んでいること、分からないこと、 実践していることなどなど、気楽に書いてください。ア カデミックである必要はありません。率直な考えを載せ てください。皆さんの実践と思いの軌跡を記録しておき ましょう。それが必ず今後の財産となります。

2. LSPからCLILへ

私は CLIL の専門家ではありませんでした。当初は LSP (Languages for Specific Purposes) (明確な目的のための言語) の研究をしていました。その調査の一環で、当時ロンドンにあった CILT (the Centre for Information on Language Teaching and Research) ((英国言語教育リサーチ情報センター)をよく訪れていました。そこで、英国の現代外国語の調査をし、vocational languages あるいはvocationally oriented language learning (VOLL) (職業にかかわる言語教育) というアプローチに関心を持っていました。日本とは多少状況が異なりますが、英国でも外国語教育はうまくいかない現状を打破するために、よ

り実践的な外国語教育を推進していました。2000年当初の頃で、英国は今よりは熱心に取り組んでいた印象があります。このアプローチは LSP と似て、languages for work and life (仕事と生活のための言語) という理念を基本に、ヨーロッパの統合や移動の自由を推進する EU の政策を背景に推進されていました。この調査をしている過程で CLIL に出会ったのです。

当時、LSP(日本ではほぼESP(English for Specific Purposes)(明確な目的のための英語))と CLIL は当初同類の教育方法と考えてそれほど注目していなかったのですが、次第にこれは面白い教育だと認識するようになりました。幸い、私の博士課程の指導の教授、Richard Johnston 先生が CLIL 関係の人を次々と紹介してくれたおかげで、David Marsh 氏とも出会うことになりました。しかし、CLIL を最も身近なものにしてくれたのはユバスキュラ大学で応用言語学を推進した Sauli Takala 氏です。昨年不幸な交通事故で他界されましたが、氏は、CEFR のこと、フィンランドの教育のこと、そしてCLIL のことを実に親切に説明してくれました。CLIL をただそれだけで捉えることなく、ヨーロッパの大きな枠組の中で理解することの大切さを教えてくれました。

3. CEFR & CLIL

CEFR は、EU の言語(教育)の共通のフレームワークを提案した理念で、複言語主義、複文化主義、自律学習など、コミュニケーションを目的とした言語(教育)の指針を提案しました。特に、言語熟達度のレベルを6段階(C2, C1, B2, B1, A2, A1)に5技能(聞く、読む、話す(会話、発表)、書く)に分けて、そのレベルを記述 (descriptor) によって表し、学習者が自身の学習を自己評価し、学習などの履歴をポートフォリオとして管理することを奨励しています。2000年の初頭に、科研費の研究グループの一人としてこの調査をしました。この調査でヨーロッパを訪れるようになり、特にフィンランドに注目するようになりました。

当時は、どちらかと言えば、ELP (European Language Portfolio) と呼ばれる CEFR の自律学習を推進する言語 学習ポートフォリオに興味があり、6 レベルの尺度の実 態と実際に学校現場でどのように利用されているのか調査していました。しかし、構想はとてもよく、各学校現場に浸透しているにもかかわらず、学習者に機能している実態が見えませんでした。その調査の中で見えてきたのがCLILという教育でした。CEFRの中でCLILに言及している文献は当時あまりありませんでした。CEFRとCLILはその出発点が違っていたからです。しかし両方ともEUの統合と関連した言語教育政策であり、ほぼ同時にヨーロッパのあちらこちらで浸透していたと言えるでしょう。違いは、もちろん、CEFRが言語教育として広がったのに対して、CLILは教科教育として広がっていたということです。このことが私のヨーロッパの教育に対する興味をますます高めたのです。

4. フィンランドとCLIL

英国によく行くことが多くなり、基本的なヨーロッパの情報はそこで得られたと思います。が、教育面ではやはりフィンランドで多くを学ぶことができました。 CLILという教育を日本で活かすことができるという意味で、多くの役立つ実践を知ることができたのはフィンランドでした。

フィンランドでは、Takala 氏から多くを学びました。 つまり、言語教育の視点から CLIL を理解できたわけ です。私自身は英語教師であり、主に言語教育者とし て活動しています。しかし、言語研究者かと言うと本 流からは外れるかもしれません。私は自分を「teacher researcher」と言っています。日本語にすると「教師で あり研究者」で、「教師研究者」ではありません。その 点から、フィンランドの教師教育はとても興味がありま す。フィンランドはナショナル・カリキュラムとして CLILは推進していません。それは必要がない。背景には、 CLILのような教育を教師が実践できる環境があるので、 草の根的に CLIL の理念が英語教育などにも入っている のです。私はそのようなアプローチが気に入りました。 そこで私の CLIL 教育の基本的な考えはできました。し かし、もちろん真似るという意味ではありません。日本 は日本の状況で CLIL を考える必要があります。J-CLIL の目的はそこにあります。

5. CLILと英語教師

日本の英語教育の伝統はなかなか崩れません。英語教師も同様です。もちろん、制度やカリキュラムはどんどん提案され進歩しているように見えます。しかし果たしてそうでしょうか。英語教師の英語力や教育方法など

が批判され、「英語の授業は英語で」、英語の悉皆研修、Can Do リストによる明確な到達度目標設定、入試制度の複雑化など、結果的に教師を苦しめる可能性があります。CLIL の教育はそうではなく、基本は学習者中心であり、生徒への教育効果も高いと想定されます。さらに、教師が意欲的に実践できる教育内容です。もちろん英語を授業で使うということが基本ですが、その英語を使うという意味はたぶん伝統的な英語教育における「英語の授業は英語で」とは少し違うのです。

関連文献

Council of Europe. (2001). Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment. Cambridge, U.K.: Press Syndicate of the University of Cambridge.

シリアの子どもたちの声を聞こう!

一公立小学校 6 年生対象の CLIL 実践一

坂本ひとみ (東洋学園大学)

1. 実践の背景

2011年3月、中東の民主化運動「アラブの春」の波及後、アサド政権による弾圧をきっかけとして始まったシリアの内戦は、「今世紀最悪の人道危機」と呼ばれている。シリアではこれまでに40万人以上が命を奪われ、内戦前の人口約2,200万人の半数以上が家を追われ、避難民として国内外にいる。今年の2月以降も、政府軍による首都ダマスカス近郊の東グータ地区の爆撃が激しさを増し、さらに多くのシリア人、それもたくさんの子どもたちが命を落としている。

そのような事態を前に、日本人として私たちは何ができるのであろうか。筆者は、微力ながらも、英語教育において CLIL を通して地球市民教育をする可能性を問い続けている。その背景となる理論としては、「学校における外国語教育は、言語能力だけを教えるのではなく、異文化間能力も合わせて教えることが重要である。」(バイラム、2015)ということをあげさせていただく。

以下に、山野有紀先生が研究代表者である科研(課題番号 26370723「外国語活動における CLIL を活用したカリキュラム及び指導者養成プログラムの開発」)の一環として都内の公立小学校 6 年生を対象に、2016年2月から 3 月にかけて 4 回にわたって実践した CLIL 授業について紹介させていただく。

2. 4回のCLIL授業

それまで、自分で指導案を作成し、自分がゼミの学生を伴って小学校に実践させていただきに伺うことが多かったのであるが、今回は、筆者が担任の先生と相談しながら指導案を作成し、実践は担任の先生とALTの先生のティームティーチングによって行われた。筆者は毎回の授業を教室の後ろから参観させていただいていたが、ドラマの脚本家のような気分であった。そして、このお二人の先生から学ぶことも大変多く、筆者にとって実に有意義な経験であった。特に、担任の先生のアイデアとして、キーワードとなる英語が言語と内容をintegrateしたものとして、毎時間の中心概念として黒板に貼りだされていたことが CLIL の観点から見て実に意義あるも

のとして機能していた。

第1回目の授業のキーワードとして担任の先生が選ん だのは"know"という英単語であった。それは授業の 最初の問いかけが、2015年の秋、トルコの海岸に死体 となって漂着したシリア難民の3歳の子どもアイラン君 の写真を見せて、"What do you know?" と問いかけると ころから始めたからである。これはフォトランゲージと いう手法であり、学習者がそのテーマについて持ってい る既知の情報を引き出したり、感じたことを表現しても らうことをねらいとしている。この外国語活動の前に担 任の先生とシリア難民について日本語で調べ学習をして いた児童たちは、真剣な面持ちで授業に参加してくれた。 これはショッキングな写真であるため、子どもの部分に はぼかしがかかったものであり、そのあと、アイラン君 のストーリーを英語で学んでもらうためには、筆者の学 生に描いてもらった絵による紙芝居形式を用いた。それ を見たあとで、児童はグループごとに、その紙芝居を小 さな絵カードセットにしたものを渡されてストーリーの 順にカードを並べ、自分の感じたことや考えたことを述 べ合った。

第1回授業の学習内容の目標は、シリアが戦争状態に あり、人々がそこから命がけで脱出して他国へ行って暮 らそうとしていること (= 難民)、そして、その中には 子どもたちも多く含まれ、命を落とす子どもも大勢いる ことを知り、理解しようとすること、第2回目は、シ リア難民の子どもたち数名を取り上げ、個々の生活や夢 を知り、大変な状況にありながらも将来の夢に向かって 何とか生きていこうとしていることを知り、その一人一 人の立場に自分を置いてみて理解しようとすること、第 3回目は、シリアの子どもたちに支援をしているユニセ フの活動について知り、そのサイトに子どもたちを励ま す言葉をのせるページがあるので、そこに寄せる自分の メッセージを考え、英語で表現してみること、第4回 目は、シリアの子どもたちを励ます英語メッセージをグ ループ内で考え、そのメッセージに絵を添えたポスター を作り、それを見せながら、グループごとに思いをこめ て発表することであった。

第3回目の授業のキーワードは UNICEF だったのであるが、この児童たちが、六年生の一学期に学校内の中

心となってユニセフのための募金活動を展開していたという経緯があり、この授業によって、あのとき集めたお金がシリア難民の子どもたちのために使われているのだということがわかり、ボランティア活動と授業での学びがうまく結びついたのであった。

また、筆者はアイラン君のほかにも、ヨルダンやレバノンに難民として逃れた女の子たちの物語を高輪のユニセフ・ハウスで入手し、彼女たちの立場に自分の身をおいてみる英語表現を使ったワークシートを作ったのであるが、それもうまく機能したと思う。また、ギリシャの島で暮らしている13歳のムスタファ君のビデオも、児童たちは食い入るように見てくれた。また、ユニセフのサイトに難民の子どもたちを励ます英語メッセージをパソコンで送ったり、グループでポスターを書いて発表するというアウトプットの活動を入れることで児童の主体的な参加が増した。

今回の実践で、子どもたちの振り返りシートに次の ような感想が書かれていた。「今まで、友達に向かって、 かんたんに『死ね』などという言葉を使っていたが、死 んでトルコの海岸に流れ着いた3歳の男の子の姿を見 て、"dead"という言葉が胸にささり、『死ね』などとい うことも気軽に口にはできないという気持ちになった。」 英語を通すことによって、今まで自分が気軽に使ってい た「死ぬ」という日本語の言葉を見直し、それが友達に 向けて言っていい言葉かどうかを批判的に考え直してい るのである。このような感性と知性をそなえた高学年児 童の外国語教育は、CLIL によってさらにその可能性を 広げることができるであろう。他教科で学んだ内容を外 国語を通して、また新たな角度から見直し、考えを深め ることで、その外国語の言葉もパーソナライズされて児 童の中に定着し、内容の方もスパイラルで繰り返し学ぶ ことにより、いっそうの理解が図られるであろう。

児童3クラス分の振り返りシートから、英語が苦手である児童も、また、英会話塾などで英語を習っている児童も、「シリアの子どもたち」というテーマ授業を4回継続したことにより、最終的には「この学習をしてよかった」という方向へ変化してきていることが読み取れる。この項目における3クラスの子どもたちの最終回におけるポジティブ評価は、すべてのクラスで90%を越えた。第1回の授業後には、すべての質問項目に否定的な答えをし、自由記述欄3ケ所すべてに「わかんない」と書いていた児童が、最終回では、「内容がわかった」「英語で何を言っているのかがわかった」「英語で世界の人とコミュニケーションしたい」「やってよかった」というすべての項目においてよい評価をつけ、「がんばったこと」について書くところに「英語」と書いていた。また、初

回授業後の振り返りでは、「いつもの英語活動の方が英語を習うのでいい」と書いていた英会話塾に通っている児童も、最終回では「やってよかった」の項目に「とてもそう思う」と答え、「がんばったこと」として「班でいっしょに話し合い、ポスターを作ってみんなでクラスの前で英語を使って発表したこと」と書いている。このような両極の児童をまきこめる力をもった CLIL 授業は、様々な能力や関心をもった子どもたちが存在する公立小学校において、希望のもてる授業方法であり、2020年より高学年において教科化となる外国語科においてさらに実践と研究が重ねられていくことが期待される。

表1 児童の振返りシートの結果 「この学習をしてよかった」という問いに 「そう思う」と回答した児童の割合

| | 1 回目授業 | 2 回目授業 | 3 回目授業 | 4 回目授業 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 6年1組 | 89% | 90% | 92% | 91% |
| 6年2組 | 73% | 88% | 77% | 94% |
| 6年3組 | 88% | 90% | 88% | 93% |

3. まとめ

「シリアの子どもたちの声を聞こう」という外国語活動を通して、国語、社会、道徳、総合などの他教科と連携をしながら、小学校高学年の子どもたちの「外国語」の学びの質を高め、子どもたちの心と頭に残る授業を展開できる可能性が CLIL 授業にはあることを確信した。

小学校英語は、子どもたちが初めて外国語と出会う大切な役割を担うものである。この最初の段階で、高学年の児童の知的関心に合った内容を持つ外国語教育をしておくことにより、子どもたちは、中学・高校に進んでからも外国語を学ぶ意義を心で実感し、世界とつながる力、人とつながる力をつけるための外国語習得に努めるようになることであろう。これは新学習指導要領の「学びに向かう態度・人間性」という観点に沿ったものとなる。

「難民問題」というチャレンジングなテーマであったが、子どもたちはすぐに "refugees" という単語も覚えてワークシートに書いていた。このような学習内容と学習言語を統合したキーワードを毎回の授業で提示すること、ストーリー、フォトランゲージ、ビデオ・動画、クイズ、自分にひきつけて難民の子どものことを英語活動をしながら考える "Can"のワークシート、振返り欄つきワークシートの活用や、UNICEFのサイトにパソコンで英語メッセージを送ったり、グループでポスターを書いて発表するというアウトプットの活動を入れることにより、国際理解のテーマで高学年児童を対象として英語活動ができるということを示せたと思う。

参考文献

- 笹島茂(編著)(2011)『CLIL 新しい発想の授業― 理科や歴史を外国語で教える!?―』三修社
- バイラム, M. (2015)「異文化間市民教育―外国語教育の 役割―」『異文化間教育とは何か―グローバル人材育 成のために―』155-179. くろしお出版
- 渡部良典、池田真、和泉真一 (2011) 『CLIL内容言語統 合型学習』上智大学出版
- Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). CLIL: Content and language integrated learning. Cambridge: Cambridge University Press.

CLIL による協調学習の実践 「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ一

山崎 勝(埼玉県立和光国際高等学校)

1. はじめに

埼玉県教育委員会は東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構(CoREF)との連携により、全ての教科で協調学習を推進している。筆者は平成24年度より研究推進員として英語の協調学習に関わってきた。本稿では、CLILの枠組みで協調学習を捉え、CLILの知見を協調学習の授業作りに活かすことを提案する。

2. 知識構成型ジグソー法

上記の事業で実践されている協調学習は、CoREFが提唱する「知識構成型ジグソー法」と呼ばれる方法により行われる。概要は以下のとおりである。

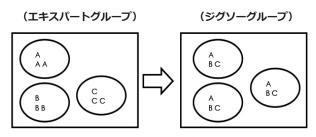


図1 知識構成型ジグソー法

授業手順

- ①生徒は3名のグループで教師が用意した3種類の資料のいずれかを協力して読む。
- ②各資料を読んだ生徒1名ずつの3名からなる別のグループにメンバーを組み替える。
- ③生徒は資料の内容を説明し合う。
- ④生徒は意見交換をして、課題の答えを自分たちの言葉 でまとめる。
- ⑤生徒はまとめた意見を口頭発表したり作文として書く。

3. 「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ

本事業の導入により、埼玉県の高校英語教育は大きな 転換を迫られることになった。協調学習の授業作りの出 発点は、話し合うに値するトピックを選ぶところから始 まり、トピックに関して意見をまとめることがゴールと なる。つまり、「内容」を重視する授業への転換が必要 となったのである。

従来型の授業では、多くの場合、その目的は、長文読解や文法の学習や語彙の習得であった。題材はこれらの目的を達成するための材料として存在していた。採用する教科書を選ぶ際の教師の関心事は、英語の難易度であり、内容について掘り下げた授業が行われることはあまりなかった。

従来型の授業が「英語を学ぶ」授業だったのに対して、協調学習で求められる授業は、「英語で学ぶ」授業であった。「英語で学ぶ」とは、「内容」と「言語」の両方を重視して統合することであり、CLILの考え方と合致する。

4. 授業における出発点とゴールの設定

前述したように、協調学習の授業作りの出発点は、トピック選びであるから、各授業の出発点は、教科内容についての知識ということになる。それでは、授業のゴールはどこに設定するべきか。協調学習の本質は意見交換であるから、トピックに関して自分の意見を自分の言葉で言語化することがゴールである。学習した教科知識を整理して説明するだけでなく、教科知識の理解を土台にして、自分の考えを創造的に述べることがゴールとなるべきであろう。正解の答え合わせではなく、正解のない問いに自分なりの解を出すことが求められる。教科知識を実生活で活用できる汎用能力をゴールとしたい。これは、CLILの Cognition (思考)と Community (協学)に相当する。

5. 出発点とゴールを結ぶプロセス

授業の出発点とゴールが定まれば、その両者を結ぶプロセスが授業の本体ということになる。「協調学習」と「英語の授業」を両立させるために、CLILのフレームワークである4つのCを活用したい。統合がうまくいっているか、以下の点を点検したい。

- ●「内容」と「言語」が統合しないと
- →授業を英語で行うことができない
- ●「内容」と「言語」に「思考」が統合しないと
 - →既習の内容を説明することはできるが、意見を述べ

ることまではできない

- ●「思考」と「言語」が統合しないと
 - →思考のプロセスが日本語で行われ、日本語で考えた 結果を和文英訳することになる
- ●「内容」と「思考」を伴わない「協学」は
 - →単なるドリルやゲームになってしまう

6. 教材例

外国語科 2 年生の「異文化理解」の授業での教材例を 以下に掲げる。テキストは CLIL GLOBAL ISSUES (三修 社) で、単元は、Ecosystems and Humans (Topic 9) であ る。テキストで生態系について学習した後の発展的な課 題として「協調学習」を行った。トピック (教科知識) は、 「観光事業と環境保護」であり、「世界遺産である富士山 の保全対策を考える」ことを授業のゴールとした。

(1)導入(世界遺産であることについて)

・2013年に登録・登録された地理的な範囲・自然遺産ではなくて文化遺産・人気の観光地・観光客、登山者の増加・観光に伴う負の影響

"Can Mt. Fuji survive tourists?" Introduction: World Heritage site

Mt. Fuji was listed as a World Heritage site in 2013. Fuji spans roughly 70,000 hectares, including Sengen Shrine at its foot, five major lakes, the Shiraito Falls and the Mihono-Matsubara pine grove. Residents and officials had earlier attempted to register the mountain as a natural World Heritage site. However, it was dropped from consideration in 2003 because of the illegal dumping of garbage and the fact that the peak lacks global uniqueness as a volcanic mountain. In 2012, Japan asked UNESCO to add the mountain to the list of cultural World Heritage sites in consideration of its religious importance and repeated depictions in works of art, and then the mountain was recommended for registration. Now Mt. Fuji is one of the most popular tourist sites in Japan for both Japanese and foreign visitors. More than 200,000 people climb to the summit every year, mostly during the warmer summer months. Tourism has a positive impact on local areas, but it also has a negative aspect. The mountain is now facing serious problems that arose as a result of receiving more tourists.

(2)課題の提示

本時の課題を提示し、生徒が各自でブレインストーミングを行う。

Worksheet ①

Task:

- · What problems do you think Mt. Fuji is facing now as a result of receiving more tourists?
- · How can we solve the problems?

(3)3名のグループで3種類の資料のうちのいずれかを読む。

資料A 混雑

・世界遺産・観光客の増加・ご来光・4つの登山ルート・混雑の理由・登山者数の抑制・入山制限・オリンピックの影響

Worksheet A: Congestion

Mt. Fuji has become so crowded that it has reached the breaking point. Being a famous cultural icon and the most beautiful mountain in Japan, Mt. Fuji has become a hot spot that every tourist must see. So many tourists try to see the sunrise on the summit and it causes congestion. Mt. Fuji has four trails leading up to the summit, and by studying the characteristics of each trail, the reasons for congestion are revealed. Congestion often occurred whenever visitors entering the Fujinomiya trail, the shortest route up the mountain, exceeded 2,000 in a day. In contrast, no blockage was seen at the Subashiri and Gotemba entrances. The Yoshida trail is the longest but it is the gentlest in terms of slope inclination, which makes it the most popular route. There were four days in a year when climbers on this trail exceeded 4,000 per day, from around 4 a.m. to 5:30 a.m. between the months of July and September. The Fujisan World Cultural Heritage Council is currently aiming to reduce the number of visitors to less than 4,000 at any one time by restricting entry if it does exceed. The 2020 Olympics is just around the corner, and the event will bring even more tourists and problems, so the council should take measures soon.

| Task: | · What are the causes of the problem? |
|---|---|
| · What is the problem? | |
| | |
| | |
| | |
| | 資料C ゴミ |
| 3971 | |
| · What are the causes of the problem? | ・投棄されるゴミの山・登山者の意識・大型ゴミの不法 |
| | 投棄・観光客増加の影響・ゴミ箱の設置・ボランティア |
| | による清掃活動 |
| | Worksheet C: Trash |
| | Officials in the prefectures of Shizuoka and Yamanashi |
| 資料B トイレ | have reported discovering large heaps of rubbish on the |
| ・トイレのない登山ルート・景観を守れるか・トイレの | slopes. Empty cans and discarded cigarette butts littered the |
| 不足・垂れ流しによる「白い川」・バイオ方式のトイレ | trails leading up to the summit, with little awareness among |
| Worksheet B: Toilets | hikers of the garbage problem. Below the fifth station, |
| Human waste is left behind by climbers on the trails | which is about half way up the mountain, large items such |
| where there are no toilets. It has raised concerns about | as electrical appliances, motor bikes, and cars were illegally |
| whether the mountain's scenery can be maintained. The | dumped near routes. The problem has apparently worsened |
| Shizuoka Prefectural Government realized after the | since Mt. Fuji was recognized as a UNESCO World Cultural |
| | |
| mountain was closed to climbers for the year that human | Heritage site. Prefectural authorities have made efforts to |
| waste had been left in several locations, including some | encourage people not to throw away trash on the mountain |
| 900 meters from the fifth station on the trail known as the | and installed trash bins at the rest stations. This trash |
| Subashiri route. Toilets are located along the mountain's | problem sparked a movement to clean up the mountain |
| trails except for between the fifth and sixth stations. The | and conserve its natural environment. For example, the |
| lack of sufficient toilets was one of the reasons why the | nonprofit organization Fujisan Club, founded in 1998, |
| country decided not to recommend Mt. Fuji for the | brings together a total of 6,000 volunteers who participate |
| UNESCO listing in 2003. Until 2005, all the toilets on the | in cleanup operations held 60 times a year. The amount |
| mountain simply let their waste run down the mountain, | of trash that the volunteers collected in 2009 alone was 57 |
| which was known as the "white river," a disgusting flow | tons. Volunteers who participate in these activities are of all |
| of toilet paper. In recent years, efforts have been made | ages and come from a wide variety of businesses, schools, |
| to get this problem under control. Composting toilets | and other organizations. Thanks to this concerted effort, |
| | |
| were installed up and down the mountain. Chipped | the trash situation gradually began to improve. There is |
| cedar was packed into the toilets, which helped to break | now hardly any trash above the fifth station. |
| down the waste. The prefecture distributed to climbers | m. I |
| portable, plastic bag-type toilets and asked them to keep the | Task: |
| mountain clean. | · What is the problem? |
| Task: | |
| · What is the problem? | |
| | |
| | |
| | · What are the causes of the problem? |
| | |
| | |

(4)グループを組み替えて情報を整理する。

Worksheet 2

Task: Listen to each other and take notes to share information about the problems and the causes.

| | F | |
|---|---------|--------|
| | problem | causes |
| Α | | |
| | | |
| | | |
| В | | |
| | | |
| | | |
| С | | |
| | | |
| | | |
| | | |

(5)グループで課題の答えを出す。

| Worksheet | 3 |
|-----------|---|
|-----------|---|

| (1) | Think | about | the | causes | of three | different | problems |
|-----|--------|----------|------|-----------|----------|-----------|----------|
| | How as | re the c | ause | s related | d? | | |

| (2) How can we solve the problems? | |
|------------------------------------|--|

(*)

(6)個人でエッセイを書く。

Worksheet 4

Task: Write an essay answering the following question.

Question: How can we solve the problems Mt. Fuji is facing now as a result of receiving more tourists?

7. おわりに

本教材は、地理的な題材であるため、Google Earth を活用した指導案も別途、作成した。Google Earth Education for Japan の以下のウェブサイトを参照されたい。

https://www.google.com/earth/education/japan/

参考文献

池田真、渡部良典、和泉伸一(2016) 『CLIL 内容言 語統合型学習 上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第3巻 授業と教材』上智大学出版

笹島茂、他(2014)『CLIL GLOBAL ISSUES 英語で 学ぶ国際問題』三修社

奈須正裕、江間史明(編著)(2015)『教科の本質から迫るコンピテンシー・ベイスの授業づくり』図書文化

三宅なほみ、東京大学CoREF、河合塾 (編著) (2016) 『協調学習とは 対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業』北大路書房

理科 CLIL「食物連鎖—The Food Chain—」

中田葉月(寝屋川市立南幼稚園)

1. 実践「Food Chain」(理科CLIL)

すでに学習した内容を使用することで、英語を聞くことが苦手な児童も意欲的に授業に参加できるのではないかと考え、1 単元全 2 時間扱いで、理科の「食物連鎖」をテーマとし、小学校 6 年生を対象に授業を行った。表1 はその単元計画であり、表 2 は 4C の分類である。さらに表 3、表 4 は第 1 時、第 2 時の授業の流れを示している。

表1 単元計画

| | "X eats Y." の表現を使用し、食物連鎖図を作成する。 |
|-------------|--|
| 第 2 時 | 陸上の動植物だけでなく、海や自分たちの身近な ものの食物連鎖について知る。 |

表2 4Cの分類

| Content | 食物連鎖 |
|---------------|----------------------|
| | X eats Y. |
| Communication | Who eats what? |
| | What's A in English? |
| Cognition | 食物連鎖表作成 |
| College | カナダの自然について |
| Culture | 自分たちの生活との繋がりについて |

2. 第1時の流れ

(1)ロッキーマウンテンに棲む動物の画像を見る。 プロジェクターに画像を写し、NET(Native English Teacher)がカナダのロッキーマウンテンに棲む動物を 英語で紹介した。

(2)登場する動物のえさについて知る。その関係性から食物連鎖について知る。

動物の名前をNETが "What's this?" と問いかけると、児童はすぐさまその動物の名前を英語で答えた。その中で児童が今まで学習していない、またはあまり聞いたことがないであろう「りす」(ここでは "squirrel"では無く、著者の言いやすさから "chipmunk"を使用)の単語を、繰り返し単語の発話練習をしてはいないが、その後も忘れること無く発話することができていた。また、その動物達が何を食べているかをNETが英語で問いかけると、英語での

言い方を知っている物については英語で(例:人参ならcarrot等)答え、知らない物については日本語で答えながらインターアクションを行った。

- (3)NETが発話する「食べるもの」と「食べられるもの」の関係について英語で聞き、その順番にカードで並べる活動、絵カードによるdictogloss(Wajnryb, 1990)を行った。4人組で1つの班になり、グループで活動を行った。聞くだけではなく、既習の知識を活用して、友だちと協力しながら活動に参加する様子が見られた。
- (4)絵カードを使用し、食物連鎖表を作成する。

ティーチャー・トークで聞いた動物や植物を絵カードにしたもの(アルファベット入り)を使い、自分たちの食物連鎖表を作成した。自分で好きな動植物を描けるように、何も描かれていない白いカードをも混ぜておいたが、そこに人間や微生物などを描き、チェーンの中に付け加えている児童もいた(図1)。また、こちらは指示をしていないが、理科で学習したことを元にピラミッド型に並べた児童もいた(図2)。



図1 食物連鎖表



図2 フードピラミッドの作成

(5)作った自分の食物連鎖表を書画カメラで写し紹介する。 完成したワークシート(図1)を元に書画カメラで写 し、3名程度が自分のFood chainを発表した。

表3 第1時の流れ

| 第1時 | 内容 |
|-----|-------------------------|
| (1) | ロッキーマウンテンに住む動物の映像を見る。 |
| (2) | ティーチャー・トーク。登場する動物のえさに |
| | ついて知る。その関係性から食物連鎖について |
| | 知る。 |
| (3) | NET が発話する「食べるもの」と「食べられる |
| | もの」の関係について英語で聞き、その順番に |
| | カードで並べる活動を行う。 |
| (4) | 絵カードを使用し、食物連鎖表を作成する。 |
| (5) | 作った自分の食物連鎖表を書画カメラで写し紹 |
| | 介する。 |

3. 第2時の流れ

(1)複数形についての学習

プレゼンテーションソフトを用いて、動物の単数と複数形の言い方や変化について学習した。絵カードに単数で単語を表示し、クリックすると回転して、複数形と動物が複数になった絵カードが表れるようになったものである。最初は単純に"s"がつくだけのものから始め、単複同型(deer)や、形が変化する(wolves, mice)ものなどについて学習した。児童は、複数は"s"がつくという法則を考え、出てくる絵を見ながら、"rabbits" "dears"と言っていたが、"dear"は単複同型であるなどを話すと興味を持って、筆者の話を聞いていた。

(2)食べるもの、食べられるものについて考える。 ワークシートに動物のイラストがあり、食べるものと 食べられるものの関係を矢印で表すようになっている。 ここに自分が思いつく限りの矢印を引き、食べるもの と食べられるものについて書いた。

(3)絵本『Who Eats What?』 (図3) の読み聞かせ。 絵本『Who Eats What?』の読み聞かせを、絵本をプロ ジェクターに写して行った。絵本に書かれている英文 では難しいため、筆者がターゲットセンテンスである、 "X eats Y." の表現を使用しながretelling(再話)し て行った。

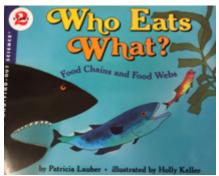


図3『Who Eats What?』

(4)Food chainと自分達の生活の関連についてのティーチャー・トークを聞く。

環境が破壊されることで、ある植物が無くなってしまうと食物連鎖が破壊され、自分たちの生活とも関わってくることなどを英語と日本語で話した。授業後のアンケートにも、「自分たちの生活と繋がっていること」や「環境を守ること」などの内容が見られた。この記述もCommunityに当たる部分である。

(5)アンケートを用いて振り返りを行った。

表4 第2時の流れ

| 第2時 | |
|-----|-----------------------------------|
| | 複数形についての学習 |
| (2) | 食べるもの、食べられるものについて考える。 |
| (3) | 絵本『Who Eats What?』(Lauber, 1995)の |
| | 読み聞かせ。 |
| (4) | ood chain と自分達の生活の関連についての |
| | ティーチャー・トークを聞く。 |
| (5) | 振り返り |

4. まとめ

この取り組みでは、既習事項を使用することで、児童が意欲的に取り組む姿を見ることができた。

2020年度からの小学校外国語の教科化に向けて、中学校の英語科授業の前倒しを行わないためにも、新学習指導要領で求められている、主体的・対話的で深い学びの実現のためにも、CLILによる授業は有効であると言える。

参考文献

Lauber, P.,& Keller H.(1995). Who Eats What? Food chain and Food Webs: HarperCollons

Wajnryb, R.(1990). Grammar Dictation. Oxford: Oxford University Press

韓国語における CLIL の試み

一大学韓国語授業での CLIL 的実践-

金興重(目白大学大学院生)

1. はじめに

2000 年代に入り韓流ブームにより韓国語学習は、基本会話表現と生活言語を中心とし誰でも気軽に取り組むようになった。韓国ドラマから K-pop、韓国文化に至るまで、韓国に関心を持っている人の傾向が少しずつ変わっているのである。学習者を分類すると、正規学校(高校、大学、民族学校)と非正規学校とに分類出来る。非正規学校での学習者の傾向を見ると、趣味を目的とした学習者、留学や受験のための学習者、在日韓国人の学習者など学習者の目的は様々である。

韓国語学習者は、長年学習しているものの会話をする機会がないため、身に付かない場合が多いようだ。そのため、韓国語学習の現場では意志疎通戦略 (communication strategies) を中心として、日常会話のinput 学習とインタラクションを通じた output 学習の活動を目指している。

意志疎通戦略は、input より output の重要性を示している。これは、output を意識的に認識することで流暢性だけではなく正確性を発達させることが出来る。また、初級・中級レベルに関係なくインタラクションや、話す時間を増やすことで学習者から高い評価をされている。意志疎通戦略だけではなく、基本文法学習のための文法翻訳式を取り入れ、語彙や文法的な学習も併用し、学習者の要求やレベルに合わせるなどの学習法を取り入れはじめている。

2. CLIL的指導法の試み

現在、韓国語学習は、意志疎通を基にしているものの、 文法や語彙などの学習が優先されている。

学習者がより効果的に思考力を養いながら、韓国語を 習得できるのではないかとの考えから CLIL 的指導法を 試みた。

対象者は、「外国語として韓国語」を1年以上学習した目白大学の韓国語学科1年生を対象に実施した。日常生活に不自由がない中級(TOPIK3)レベルの22名(男1、女21)。

本稿では、全4回の授業のうち1回目の90分授業の

流れを紹介する。

教材は「グローバル世界7か国大学生の価値観比較報告書」と他に、講師が作成したワークシートを用意した。 授業は、導入、内容の提示、内容の処理、会話や文の 産出、グループ発表を基本の流れとし、4Cの基本原理 を結びつけるように構成した。

韓国語の授業に CLIL を進めるために次の項目に留意 した。

①教師の韓国語使用

内容学習と語学学習の比重を等しくするため活動の指示など韓国語主体で進めるようにした。韓国語の理解が出来ない場合、日本語で補助をするようにする。

②写真、Web、絵の視覚教材を利用して導入 画像、写真を提示することで関心度が高くなり生徒の 注意を引くことが出来る。

③ペアワーク

インタラクションを通じ自分の意見を出せるよう誘導する。7ヶ国の若者の意識を理解し、自分と関わりを考えるようにする。

④学習の手助け

内容と言語の両面での足場を用意する。

⑤語学の4技能

内容を理解し、語学の4技能をバランスよく統合する。

2.1 導入 (授業時間: 2分)

活動1

- ①①授業内容を連想させるような写真を提示。
- ②「グローバル世界7か国大学生の価値観比較報告書」 の中から、韓国の若者の恋愛意識についてのネット ニュースを提示する。

2.2 内容提示 (時間:8分)

若者の意識の統計とウェブサイトで情報を活用し「国による若者の考え方の差異」について、世界7ケ国の大学生にアンケート調査した統計結果を教材として提示した。項目は、①付き合っている人の有無②記念日に対する意識③結婚の必要性④適齢期はいつ④離婚について⑤

同棲について、の5項目である。

2.3 内容処理 (時間:10分)

活動2. ワークシート作成 (時間:10分)

- ①教師が資料を提示する。 (図1)
- ②学生にワークシート作成してもらう。



'연인과의 100일 기념'은 한국 스타일

미국과 브라질 대학생이 연인과 챙기는 기념일 수는 4.8로 7개국 중 최다를 기록했다. 그에 반해 일본은 2/5개로 가장 적었고, 아예 '기념일을 챙기지 않는다'는 응답도 17.0%나 됐다. 일본 대학생 이 연애에 소극적임을 다시 한 번 확인할 수 있었다.

연인과 챙기는 기념일 1순위는 공통적으로 생일을 꼽았는데, 서양권 국가 모두 '상대방 가족의 생일'도 중요하게 생각해 챙기고 있다고 응답했다. '100일' 기념일은 오직 한국에서만 다수가 챙기는 기념일이었다.

図1 記念日に対する意識 注1

①語彙や文法のワークシートを提示し、写真資料の表現 や単語を書き出す。(図2)

| 100 일 기념 : |
|-------------|
| 챙기다 : |
| 꼽다: |
| 소극적 : |
| 적극적 : |
| 가장 : |
| 최다: |
| 다시 : |
| 일본대학생 : |
| 상대방 가족 : |
| 확인할 수 있었다 : |
| 기록했다: |
| 응답했다 : |

図2 語彙の確認シート

②言語知識や言語スキルを高め、内容の理解のためにグループで相互確認し、不明点や間違いを正す。

100일 기념: 100 日記念日

챙기다:(欠かさず、ぬかさず)準備する。

晋口:優れている中の一つを示す。

소극적:消極的 적극적:積極的

가장: 最も 최다: 最多 다시: 再び

일본대학생:日本の大学生 상대방 가족:相手の家族

확인할 수 있었다:確認することが出来た。

기록했다: 記録した。 응답했다: 答えた。

図3 語彙のまとめシート

③教師はサポート役になる。



活動3グループ活動 (時間:5分)

①1組5~6名のグループで話し合う。提示された統計の 写真資料を見ながら内容提示項目の中に「記念日に対 する意識について」の国と自身との相違点、類似点を グループで言わせる。

活動4グループ活動(時間:5分)

- ①「理想的な異性」について、話し合う。
- ②それぞれの意見をポストイットに書き出す。
- ③箇条書きした内容をまとめる。
- ④その後、代表1名が韓国語で発表する。

活動5ペア活動 (時間:20分)

- ①「交際相手が出来たら、したいこと」をテーマとして、 写真と語彙のワークシートを提示する。
- ②写真の内容を理解できるよう語彙をまとめたシートを 提供する。

남친이 생기면 하고 싶은 것

- 1. 벚꽃 구경하기 (一緒に花見に行く)
- 2. 커플 사진 찍기(カップル写真)

- 3. 카페 데이트 (カフェーデート)
- 4. 영화데이트 (映画を一緒にみる)
- 5. 놀이공원 데이트 (テーマーパーク)
- 6. 기념일 (記念日)
- 7. 백허ユ (バックハグ)
- 8. 커플용품 맞추기 (カップルリング)
- 9. 스킨쉽 해보기 (スキンシップやってみる)

図4 語彙のまとめシート

③ペアでディスカッションしながら、会話文を作成する。

남친이 생기면…

예문)

소리) 아미씨는 남친 있어요?

아미) 아니요 아직 없어요

소리) 그럼 제가 소개해 줄까요?

아미) 좋죠!. 누구예요? 멋 있어요? 키가 커요?

例文)

ソリ:あみさんは、彼氏いますか?

あみ:いません。

そり:なら、私が紹介しましょうか?

あみ:はい。誰ですか?格好いい?

背が高い?

図5 会話文作成シート

活動6会話文の産出 (時間: 30分)

会話文を作成し、10組が順番にペア発表する。

活動7フイードバック (時間: 10分)

作成した会話文を発表後、発表用紙を集め教師が添削を 行う。

2.4.考察

活動1

韓国語学科の2年になると、韓国の大学に留学する対象者となる。韓国の大学生の意識を調べ、基本知識や経験を活かしながら学習出来るように学習者の興味を持つようなテーマを選定した。

活動2

文法中心教授法の外国語の学習から、学習者が関心を持つテーマを選定することで動機づけが高まった。特に韓国留学を目前としているため、同世代の韓国人の大学生らの意識の相違点を理解することができた。また興味が惹く話題のためディスカッションや個々の考え、理想など意見交換も活発になり、まとめを伝える時、単語選

択や文法選択を考えて作成することがみられた。

活動3

言語を、コミュニケーションと学習ツールとして、学 習者の興味・関心に沿った工夫により自然に語学学習が 出来る。

活動4

会話文作成の際、基本フォーマットを提供するが、互 いに意見を述べ、自分の伝え方で文を作成するようにす る。形式的にならないようにするために、暗

記や理解に偏ることなく自分の言葉で話し記載することにした。

活動5

グループ活動を通じて、自分の意見を述べつつ様々な 意見を文章としてまとめ、発表するプロセスを通じ、語 学の4技能を有機的に統合できる。

活動6

「交際相手が出来たら」の会話文では、今の若者それぞれの理想的な交際相手とやりたいことに共感できる部分や驚きの内容で学習者が楽しく参加できるような雰囲気になっていた。

3.まとめ

現在、韓国語学習の現場での教授法は、学習者の第2言語のレベルや目的、要求によってそれぞれ異なる。また、非正規韓国語学習での個人レッスン、グループでの学習の場合は少数から数十人まで多様なため、指導者は学習者に合わせた理想的な教授法を、必要に応じて今昔の利点を活用した授業を選択し進めることが重要である。

今回、韓国語学習に CLIL 的指導法である 4C の原理 を取り入れて、韓国語教育での可能性を確認できたこと に意義がある。

注

1) 「글로벌7개국대학생 가치관 비교」

(グローバル7ヶ国 大学生価値観比較:筆者訳) 資料。(最終閲覧日2018年4月18日)http://www. wikitree.co.kr/main/news_view.php?id=262868

参考文献

池田真、渡部良典、和泉伸一(2011)

『CLIL内容言語統合型学習第1巻』上智大学出版

笹島茂(編著) (2011)

『CLIL 新しい発想の授業―理科や歴史を外国語で教える!?―』三修社.

張彤「CLIL 型中国語授業の試み」

(最終閲覧日2018年4月18日) https://www.slideshare.

net/engnet/clil-72491077?next_slideshow=1

童謡・童話から学ぶ自然と韓国語 -マザータングプログラム韓国語クラス-

錢昭熹(目白大学大学院生)

1. はじめに

東京にある聖心インターナショナルスクールでは通学する子供たちにマザータングプログラム (Mother Tongue Program: MTP)を提供している。このプログラムは、一日の学校生活が英語のみで行われているインターナショナルスクールの子供たちに母語(母国語)を学ぶ機会を与える為に設けられた放課後のプログラムである。即ち英語での学校生活のなか、各国の子供のマザータング^{注1)}に対する重要性や必要性の認識の下で、学校が設けたプログラムで、それぞれの国の保護者の希望があれば実施が可能なプログラムである。

MTP には日本語を始めとして韓国語、フランス語、サウジアラビア語、中国語など英語圏以外の国の言語教室がある。そのうち韓国人家庭の子供たちに韓国語を指導する韓国語クラスにおいての CLIL 的実践を紹介する。

韓国語クラスは両親、もしくは、父親か母親が韓国人である子供を対象とし一時間の授業を週一回実施する。 ここで紹介するクラスは初等部1年生の授業の一部である。

クラスの子供たちは家庭においての簡単な日常会話程 度は可能であり韓国語の文字であるハングルは MTP 韓 国語クラスで最初から学んでおり、個人の差はあるがあ る程度の読み書きができる。

MTP韓国語クラスの幼稚部・初等部低学年の授業では、子供たちの興味や関心を引くため童謡・童話を取り入れる場合が多い。学校の授業の内容や学年のレベル、そして季節や年間のしきたりなどに合わせて童謡・童話を選択して行う。子供たちに親しみのある童謡・童話を取り入れることによって学習した言語やその内容が定着しやすいのである。特に童謡の場合は、学ぶと子供たちは常に口ずさむ傾向があるため、言語知識や科目の内容が長期記憶として残り自ずと身に付くようになるのでよく実施している授業方法である。週一回の授業であるため、学習した童謡は翌週の初めに一緒に歌うようにする。そうすることで子供たちにどの位身についているかが確認でき、次の授業に反映することが出来る。

春に行っている授業の1つが「童謡・童話から学ぶ自然と韓国語」である。授業は春の授業2週間にかけて行

う。1週目は童謡を通して春の自然(植物の成長)について触れて、また家庭で歌いながら、画用紙に歌詞を書いたり絵を描いたりするような宿題を出す。宿題は子供が自分の思いを自律的に描くことができるように画用紙を使うようにする。但し、歌詞を書くのは、書くことが好きな子供、そして書きたい希望があれば書かせ、強制はしない。

2. 童謡・童話から学ぶ自然と韓国語

2・1 1週目: 童謡から学ぶ自然と韓国語

(時間:60分)

教授者は種、芽、つぼみ、花を用意し子供たちに見せて子供たちの反応を見ながら授業を進めていく。実物がない場合は絵や写真を使ってもいい。種、芽、つぼみ、花を順番に並べるように指示しそれらにあたる韓国語を教える。それから体を動かしながら韓国語で童謡を歌う。YouTube をみながら一緒に歌うと良い。

「種」(童謡)

たね、たね、たねを蒔いて また、また、水遣りをしました。 一晩、二晩 シッ、 シッ、 シッ ポドドック、ポドドック、ポドドック 芽を吹きました。

芽、芽、芽を吹きました。 また、また、水造りをしました。 一晩、二晩 オッ、オッ、オッ ポロロン、ポロロン、ポロロン お花が咲きました。

(日本語訳,筆者)

(キム・ソンギュン,作詞・作曲)

2・2 2週目: 童話から学ぶ植物の成長過程

(時間:60分)

2・2・1 童話「小さい種の夢」を読む

1)導入

- ①復習として1週前に学んだ童謡「ssiat(種)」を一緒に 歌って種から花になるまでを思い出すようにする。
- ②教授者は童話「小さい種の夢」を読み聞かせる準備と して、子供たちに次のように言う。

誰に会ってどんなことがあるかをよく聞いてくださ 10

2)読み聞かせ

読み聞かせをする際、子供たちが声を出して一緒に読ん だり、輪読したりするなど、子供たちの状況に合わせて 指導する。

3)グループワーク

読んだ後は内容についてグループで 話し合いをさせる。 種がお花になるまでの旅で誰に会って、どのような話し をしたのか、何のことがあったのかを子供たちにグルー プで話し合うようにする。そして話したことを順番に 沿って絵を描かせる。やや大きい画用紙に描かせるほう がより発想的になる。

4) 家庭との連携

教室で絵にした「植物の成長過程」に関する 単語をハ ングルで書くことを宿題として出す。家庭との学習の連 携を行う。

> 「小さい種の夢」 (童話) (イタリックス体はト書き)

暖かい春でした。

ナの上に小さい種がひとつありました。

チョウチョウ一匹がひらひらと種のそばに飛んで来ました。

チョウチョウ $^{\stackrel{(1)}{12}}$:「君は誰なの。」

種:「僕は種だよ。」

チョウチョウ:「種?それは初めて聞く名前だけど、君 は黒くてとてもぶさいくだな。」

チョウチョウが遠くへ飛んで行ってしまいました。

種:「僕はどうしてこんなにぶさいくかしら。」

種が悲しんでいる時、空からお日様の声が聞こえました。

お日様:「種よ、心配しないでね。君はきっときれいに なるから。|

種:「ありがとう、お日様。」

お日様の言葉に種は少し勇気が出ました。その時、土の 上で幼虫がもぞもぞと這って来ました。

「種がお花になるまで旅行しながら友達に会います。 幼虫:「おや、これは何?何だ~小さいのに目もない じゃない。」

種:「僕は種だよ。|

幼虫:「種?君は足もないの?」 種:「うん。僕は動けないよ。」

幼虫:「やれやれ、ぶさいくな上に動きもできないね。」

種は悲しかったです。

風のおじいちゃん:「種よ、心配しないで。僕が君を動 けるようにしてあげるから。|

風のおじいちゃんが種を抱いてある小さな畑に置いて行 きました。

暗い夜になりました。

種:「ああ、寒い。」

種がぶるぶる震えている時、隣の土が言いました。

土:「心配しないでね。僕が君を暖かくしてあげるから。」

土が種を温かくしてあげたら、空から雨が降り始めました。

種:「ああ、のどが渇いている。ごっくんごっくん。」

種は一晩中雨水を飲みました。あら、ところがこれはど ういうことでしょう。朝になると種はとこかに行ってし まって、その場所にはきれいな新芽が生え出ていました。 そして何日たってきれいなお花を咲かせるようになりま した。

種:「お日様、風様、雨様、土様!皆さんありがとうご ざいます。皆さんの助けがなかったら僕はまだぶさい くで小さい種のままに残っているでしょう。」

畑ではきれいなお花が晴れやかに微笑んでいました。

日本語訳(筆者)

(韓国文化教育叢書発行委員会(編), 2006)

2・2・2 協同活動

童話「小さい種の夢」を演じさせる。子供たちに役割を与えて演じさせ協同学習を試みる。場合によっては配役を代えてもう一度演じさせて子供たちが家庭でも演じるように指導する。

3. まとめ

ここではインターナショナルスクールの子供たちがマザータングを学ぶマザータングプログラム(MTP)の韓国語クラスの実践の一部を紹介した。

MTP は放課後のプログラムであるため、カリキュラムや季節などに沿って他教科内容を取り入れやすい。更に放課後の授業なので子供たちは MTP クラスに入るとすぐその日その日の教科内容を思い出して自分の意見を話し合ったりもする。

最近の子供たちは活発で自分の意志に従い自律的に行動する傾向がある。紹介した MTP 韓国語クラスの子供たちは特にそうである。子供たちにとって楽しく有意義な授業、子供たちが自律的に出来る授業を常に工夫しないといけないとの指導者としての「使命感」のようなものがここで紹介した CLIL 的な実践に繋がるようになった。有意義で楽しい授業にするため子供たちに親しみのある内容やタスクなどを MTP 韓国語クラスに取り入れて、CLIL の四つの要素である科目内容 / テーマ・言語・思考・協同学習のバランスのとれた授業の実践を常に試みる。そしてもっと多くの教授者が CLIL 的な実践を試みることを願っており、今回の実践例が少しでも役に立てればと願っている。

ここで紹介したような日本や東アジアの複言語社会の中でマザータングを育成するための CLIL 実践のあり方も今後の研究の対象に含める意味は少なくないと思われる。

注

- 1) 「マザータング」の対訳語や意味として「母語」や 「母国語」の意見があるため本稿では「マザータン グ」と称する。
- ²⁾ 演じさせるためそれぞれの役割を記入した。教師の発 話と童謡・童話は目標言語である韓国語で行う。

参考文献

韓国文化教育叢書発行委員会(編)(2006)『童話で学ぶ 韓国語』韓国在外同胞教育振興財団

キム・ソンギュン「Ssiat」 (種)

(最終閲覧日2018年4月20日) http://music.naver.com/ lyric/index.nhn?trackId=20181824

J-CLIL Newsletter 掲載 賛助会員& website

* J-CLIL website 掲載名称および掲載順

Global Step Academy

https://www.gsacademy.com/online/index.html

●三修社

http://www.sanshusha.co.jp/text/search_result/sgen/269/

●教育開発出版

http://www2.kyo-kai.co.jp/

●成美堂

https://www.seibido.co.jp

●一般財団法人 英語教育協議会 (ELEC)

http://www.elec.or.jp/

●サインウェーブ

http://elst.sinewave.co.jp/

●イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン

http://www.efjapan.co.jp

●ナショナルジオグラフィックラーニング

http://cengage.jp/elt

●学習アトリエ COR

●総合教育・生涯学習機関 ECC

http://www.eccjr.co.jp/

『J-CLIL Newsletter』 投稿募集

ニューズレターWG

日本 CLIL 教育学会 (J-CLIL)では、ニューズレターへの投稿をお待ちしております。クラスでの CLIL 実践の紹介や実践状況の報告などをご紹介ください。皆様の実践が共有できるよう、Web で公開をさせていただきます。皆様の投稿をお待ちしております!奮ってご応募ください!

**************** 投稿要領 ***************

- 1. 日本 CLIL 教育学会の会員のみ投稿可能です。
- 2. 原稿内容は CLIL の実践に関わる報告を中心とします。
- 3. 執筆量は2ページから10ページ程度とします。
- 4. 言語は日本語とします。
- 5. 原稿締切は随時(メーリングリストで連絡)とします。
- 6. 投稿数は、原則として1人1編とします。
- 7. 投稿者の方は、以下の要領に従って原稿を作成し、提出してください。
 - ・原稿の大きさはA4サイズとし、見本のテンプレートに従って作成すること。
 - ・提出は、そのままWebで公開可能な完全原稿とする。
 - ①PDF原稿、②ワード原稿、③図、表の資料、以上の3点を提出すること。
 - ・上記(①~③) を、jclilnewsletter@gmail.com に提出する。
 - ・原稿にはページ数を明記する。
 - ・本文字詰めは、1ページあたり22字×42行×2段=1,848字(10.5ポイント横組み) とする。
 - ・字体は、和文=MS 明朝、英文=Century、見出し=HGS 創英角ゴシック UB など、 とする。
 - ・句読点は、句点(。)と読点(、)とする。
 - 横見出しは、1.0000 2.0000 とする。
 - ・文献リストは APA スタイルに準ずる。
 - ・原稿の初めに、表題(副題が必要な場合は明記)、氏名、所属、を明記する。

J-CLIL Newsletter 編集委員

相羽千州子(東京電機大学)*編集委員長 山下理恵子(武蔵野大学) 武藤克彦(東洋英和女学院大学)

英語スピーキング学習システム ELST

AI でスピーキングを自動採点して先生の業務を効率化



株式会社サインウェーブ(所在地:東京都千代田 区、代表取締役:赤池雅光)は、2020年から大学 入試センター試験で英語のスピーキングが必須科 目になるという実施方針案へ向けて、英語スピー キング学習システム「ELST(English Listening & Speaking Testing)、以下 ELST」を開発いたしまし た。

スピーキング



生徒それぞれの自由な解答を AIが自動で採点します。

単語機能



発音記号の練習ができ、 動画で発音のコツを学べます。

評価レポート



AI が先生用と生徒用の 評価レポートを発行します。



実際の試験と同じようなかたちでスピーキングの問題が出るので、 受験前の試験対策になります。

自分の好きなタイミングで何度でも行うことができます。



日頃の採点作業の軽減になり、生徒と向き合う時間を増やすことができ ます。

実績 ELST のスピーキング採点技術は、年間 300 万人以上の入試での採点実績を持ちます。 音声認識技術・音声合成技術の世界的なコンテストで No.1 の評価を受けています。

株式会社サインウェーブ

東京都千代田区外神田3-14-3 福栄秋葉原ビル2F

TEL: 03 - 4500 - 9125 URL: https://www.sinewave.co.jp/ ELST $\sim - \mathcal{V}$: http://elst.sinewave.co.jp お問い合わせ:elst_support@sinewave.co.jp



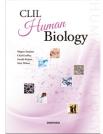
三修社の英語教科書(CLIL シリーズ)

CLIL 英語で学ぶ身体のしくみと働き

CLIL Human Biology

笹島茂, Chad L. Godfrey, 小島さつき, Matthew Wilson, Suzanne Dijon 著

英語で人間の身体のしくみや機能の基 本を理解し、コミュニケーションがで きることを目標とする。



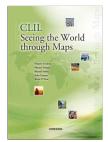
CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情

CLIL Seeing the World through Maps

笹島茂 編著

仲谷都,油木田美由紀,大和洋子著

リスニング、読解などを通じて国際情 勢や地誌、歴史を英語で学び、総合的 な運用能力を身につける。



B5 判並製 128 頁 全 14 課 本体 1,900 円+税 ISBN 978-4-384-33460-9

B5 判並製 96 頁 全 12 課 本体 1,800 円+税 ISBN 978-4-384-33447-0

CLIL 英語で学ぶ国際問題

笹島茂, 池田真, 山崎勝, 千田享, 藤澤さとみ, 福島純子, 仲谷都, 油木田美由紀, Alana Schramm 著

国際問題について英語で学習すること で、学生が英語を使って考えるように なるよう意図した構成。



CLIL 英語で学ぶ健康科学

CLIL Health Sciences

笹島茂, Chad L. Godfrey, Michael J. Gilroy, Frances Gleeson, Stephen O'Toole 著

英語を使って健康科学を学べるよう編 集。英語で学習することで、学生が英 語で考えるよう意図した構成。



B5 判並製 136 頁 全 14 課 本体 1,900 円+税 ISBN 978-4-384-33433-3

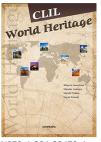
B5 判並製 80 頁 全 12 課 本体 1,800 円+税 ISBN 978-4-384-33424-1

CLIL 英語で学ぶ世界遺産

CLIL World Heritage

笹島茂, 仲谷都, 油木田美由紀, 小杉弥生 著

英語と日本語を使いながら、世界遺産 の歴史、位置、現在の様子などの文化 的な情報を読み解く。



CLIL 英語で学ぶ科学と数学の基礎

CLIL Basic Science & Math

笹島茂, 小島さつき, Chad L. Godfrey, 土田敦子, 佐藤元樹 著

英語と日本語を使いながら、数学・科学・ 物理学の基本を学ぶ。



B5 判並製 104 頁カラー 全 14 課 本体 2,000 円+税 ISBN 978-4-384-33478-4

B5 判並製 96 頁 全 17 課 本体 1,800 円 + 税 ISBN 978-4-384-33479-1 C1082

国際情勢を考える 国連ニュースで読む世界

From the UN News Centre

日本国際連合協会 編, 武藤克彦, 石渡淳元, 長和重, James Francis, 仲慶次 編著

長文読解、図表や数式などの読み解き、 グループディスカッションなど多様な タスクで、英語力を総合的に強化する。



専門教材 CLIL 新しい発想の授業 理科や歴史を外国語で教える!?

笹島茂 編著, ピーター・メヒスト, ディビット・マーシュ, マリア・ヘスス・フリゴルズ, 斎藤早苗, 池田真, 鈴木誠, 佐藤ひな子, ソピア・ヤシン, シャンタール・ヘンミ 著

CLIL 指導者にかかわる様々な指導法 や指導技術を、外国語を教える教師と 教科科目内容を教える教師の双方に説 明するガイドブック。



B5 判並製 96 頁 全 20 課 (Part A:10 章 +Part B:10 章) 本体 1,800 円+税 ISBN978-4-384-33450-0

A5 判並製 208 頁 本体 2,500 円+税 ISBN 978-4-384-05667-9

